

2021年度
あさひかわオープンカレッジ連携講座
報告集



[撮影] 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム 教育コーディネーター 白井暢明

一般社団法人旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

共催：旭川市教育委員会

刊行にあたり

新型コロナウイルスの流行もすでに2年におよぶ。国内外の芸術、経済活動に大きな影響を及ぼし〈旭川音楽大行進〉や〈北の恵み 食ベマルシェ〉も中止となつて、旭川の秋もすっかりさみしくなつてしまった。このオープンカレッジも昨年の最終回は旭川市内における新型コロナウイルス感染症患者の急増に伴い中止を余儀なくされた。

はたして今年度は講座が開けるものかといささか危ぶみながらの出発ではあったが、ワクチン接種の広がりもあって、なんとか最終回までいちども欠くことなく開講することができた。これも関係者各位、講師を引受けてくださった先生方、参加してくださった受講生の皆様のおかげである。深くお礼申し上げたい。

また、今年度は例年になく多くの受講者に参加いただいた。生涯学習活動の一環として、年代や職業を異にするさまざまな人々が集まって学び、議論するというこの貴重な場が今後も継続することを期待してやまない。

北海道教育大学旭川校 教授 十枝内 康隆

目 次

第1回「国境を越えて考える疾病対策」 旭川医科大学 助教 神田 浩路	… 2
第2回「コロナ問題を哲学する」 元名寄市立大学 教授 白井 暢明	… 4
第3回「音楽の力～音楽療法入門～」 旭川大学短期大学部 教授 五十嵐 路子	… 6
第4回「あさひかわのまちづくり」 東海大学 名誉教授 大矢 二郎	… 8
第5回「モノづくり、クルマ作りの変遷； Just in Time からその次へ、北海道からのモノづくり」 旭川工業高等専門学校 准教授 杉本 剛	…10
第6回「『古い』を考えるー自分らしく生きるためにー」 旭川大学 教授 栗原律子	…12
第7回「文豪たちの語学力」 北海道教育大学旭川校 教授 十枝内 康隆	…14
「あさひかわオープンカレッジ」アンケート実施結果 サテライトキャンパス Uープラザ事務局	…17

「国境を越えて考える疾病対策」

2021年10月2日（土）13時～15時
旭川医科大学 助教 神田 浩路

『アジア最後のフロンティア』と呼ばれるミャンマー。『光り輝く島』という意味を持つスリランカ。両国において長期滞在し、感染症を中心とした調査研究を担った経験をもとに、これらの成果がどのように私たちの生活につながり、結びついていくのか、これからの国際協力も含めて参加者と一緒に考えました。

<スリランカ>

人口約 2,100 万人、北海道の 8 割の国土面積を有するスリランカでは、現地の大学を拠点として顧みられない熱帯病 (Neglected Tropical Diseases、NTDs) の 1 つである狂犬病の調査研究を担っています。狂犬病は致死率がほぼ 100% の病気で、そのほとんどが犬から咬まれることにより感染します。狂犬病の撲滅に成功した国は日本や一部のヨーロッパ諸国等の限られた国・地域のみであり、世界中で毎年約 59,000 人が犠牲となっています。しかしながら、狂犬病は 100% 予防可能な病気であり、①飼い犬の登録・予防接種と野犬の管理（駆除）、②サーベイランス強化、③予防啓発活動、が主要対策とされています。スリランカでは、このうち②と③に焦点を置き、地域における疫学調査から児童を対象とした予防介入プログラムの開発、そして精度の高いデータ収集システムの構築までを実施し、それぞれの現場における活動状況について写真を交えながら説明しました。また、日本が狂犬病を撲滅し国内発生件数ゼロを維持している現状と対比しながら、狂犬病撲滅を掲げる国々における対策の在り方について議論しました。

<ミャンマー>

人口約 5,100 万人、日本の 1.8 倍の国土面積を有するミャンマーでは、政府開発援助 (ODA) の一環として世界 3 大感染症の 1 つであるマラリア対策に従事していました。マラリアは現在でも世界で年間 40 万人が犠牲となる疾患であり、ミャンマーは東南アジア諸国連合 (ASEAN) の中で最も犠牲者の多い国です。我が国は、ODA を活用して民主化前の 2005 年よりミャンマーへ様々な支援を行い、

マラリアによる犠牲者数も着実に減少してきました。そのうち、2014年から企画され2016年から実施された技術協力プロジェクトについて、案件発掘から事前調査、事業実施までの一連の過程を実際に担った経験に基づき、ミャンマー特有の援助事情を交えながら紹介しました。昨今の不安定な政情下における支援には多くの困難を伴いますが、世界が注目する国における公的資金を活用した国際協力の意義について理解を深めました。

<おわりに>

今回は、疾病対策における研究協力と開発実務について、2か国における事例に基づき紹介しました。参加者からは、各国における文化・風習の違いだけでなく日本人が他国の現場で調査研究を先導する意義など、多くの質問をいただきました。また、国際協力に関心のある高校生・大学生など、若者の参加もありました。コロナ禍で海外渡航も難しくなり、内向き志向になりがちな現在ですが、今回の講演を通じて一人でも多くの方々に外の世界へ視点を向けていただき、地球人の一人として感染症をはじめとする世の中の様々な問題について考える契機となりましたら幸いです。



「コロナ問題を哲学する」

2021年10月16日(土)13時～15時

元名寄市立大学 教授 白井 暢明

【旭川ウェルビーイング・コンソーシアム教育コーディネーター】

I コロナ渦の原因と背景

① 生態系における人間固有の位置の逸脱

- ・本来生態系の中の異なる領域にいるウイルスの世界への人間の侵入＝人間と野生の棲み分け違反
- ・現代人の科学・技術による地域の生態系や文化の「固有性」や「多様性」の軽視
- ・世界の文化・ライフスタイルの画一化・グローバリズムの危険性

② 人間による自然環境の破壊、開発、都市化、気候変動との共通性

- ・パンデミックは人類＝世界の王者としての奢りに対する自然世界の反撃
- ・農耕・食料確保や都市化のための原生林の伐採や河川・海洋の汚染
- ・人類の限りない欲望による環境破壊（地球温暖化や大気汚染）。
「気候正義」(climate justice) 違反

③ 現代の経済システムの問題

- ・現在の経済システム：「大量生産・大量消費・大量廃棄」による環境破壊
- ・「経済成長至上主義」（現実にはあり得ない神話）：コモディティズムによる「過剰な欲望」の創出
- ・通常環境への負荷をコストに参入しない「市場原理」の問題性
- ・「使用価値」より「商品価値」の重視という倒錯：人間にとって真に大切なものとは？

II 社会システムの問題

① 生命に直結する領域(医療システム・食料産業)の脆弱さ

- ・エッセンシャル・ワーク（高い「使用価値」を生み出す労働＝医療と教育等）の軽視

② 「民主主義」体制か「全体主義」体制か？

- ・「全体主義」ではなくても「民主主義」的な方法で国民の統制・秩序の維持が十分に可能

Ⅲ ポスト・コロナに向けての哲学的課題

- ① 自然世界の中における人間、人間文化の有限性の再認識が必要
 - ・人類は世界の支配者（王）という思い上がりを捨てるべき 自然への「畏敬」の念の必要性
- ② 人類の真の敵とは何か？人類は運命共同体であることの自覚
 - ・人間が戦うべき相手は外国、外国人ではなく、ウイルスのような外敵。国際的連帯が必要
- ③ 人間にとって真に重要なもの、必要なものとは？ 過剰な欲望を捨てよ！
 - ・現代人の生活には「過剰な欲望」と「ムダなもの」が溢れていることの自覚。
 - ・持続不可能な「経済成長至上主義」から持続可能な「脱成長型経済」へ
 - ・「商品価値」（カネ）ではなく「使用価値」（生命や生きがいに関わるもの）の重視
 - ・「ディープ・エコロジー」：「相互依存」、「持続可能性」、「生態学的循環」、「柔軟性とゆらぎ」
- ④ まとめ：真の「幸福」とは？
 - ・あらためて、「本当の幸せ」とはなにか？を考え直そう！パンデミックが教えてくれた、私たち人間にとって「真に大切なもの」とは？
 - 生存するための必要最小限のモノ（食料、健康、生活必需品）の確保
 - 過剰な欲望・ムダなモノへの執着を捨てること
 - 精神的な豊かさや充実感、生きがいを与えるものを見つけ、それを享受し、味わうこと。他人とのコミュニケーション、コミュニティ（協働）、芸術、信仰、愛 etc。
 - パンデミックを契機として、あらためて世界・人類は有限な地球に住む運命共同体であること、連帯の重要性を認識すること 戦争（人間どうしの殺し合い）など最も愚かなこと



「音楽の力～音楽療法入門～」

2021年11月6日（土）13時～15時
旭川大学短期大学部 教授 五十嵐 路子

近年よく耳にする「音楽療法」という言葉がありますが、皆さんはその言葉をどの様に受け止め、理解していらっしゃるでしょうか。そもそも音楽とは私たち人間にとってどのようなものなのかを皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

音楽と人間の関係を探るため、音楽の起源にまで遡ってみましょう。音楽は太古の昔から人間が生きる営みと深い関係性がありました。例えば風の音や小鳥のさえずりなどの自然音の模倣であったり、宗教的な儀式や集団での仕事の中で音楽は生まれて来て、愛やメッセージを伝えるコミュニケーションツールとしても人間の生活には欠かせないものとして存在してきました。この広い地球上に文字を持たない民族は存在するが、音楽を持たない民族はいないと言われています。なぜなら、音楽は人間の生命現象そのものであるからです。私たちは母親のおなかの中で命を頂いた時から、体内に音楽を持っているのです。体の中に存在する音楽の源とは何でしょう。それは、心拍（ハートビート）です。心拍は私たちの体の中にある音楽です。だから音楽を聞くと自然と体が動き出すというように、音楽には私たちの身体や心に直接働きかける力があるのです。

では、音楽療法とはいったいどのような物なのでしょう。音楽療法に求められるのは、治療的な意味を見出す事、そして意図的・計画的に実施されるべきという事です。この点において、「音楽レクリエーション」や「音楽教育」と類似点がありますが、区別されるべきものです。音楽療法の様々な研究の中で、音楽には3つの作用があるとされています。一つ目は「生理的作用」です。特定の音楽を聞く事で末梢血管の拡張と、筋肉の緊張低下が起こるとか、音楽が長期記憶において様々な出来事と結びつきやすいなどの作用です。二つ目は「心理的作用」です。音楽活動で気分転換や発散をする事や、音楽に励まされた経験がある方もいらっしゃると思います。歯科医院の待合室や産院の分娩前のお部屋で静かに心地よい音楽が流れているのは「マスキング効果」と言い、これも音楽の心理的作用を利用したものです。三つ目は「社会的作用」です。音楽

はそもそもコミュニケーションツールなので、一緒に歌をうたうことや音楽に合わせて体を動かすことで、一体感が生まれ他者とつながる事ができます。特に集団での音楽活動には社会性が要求されるのです。これら3つの作用が音楽の力となって療法や療育の中で生きてくるわけです。

音楽療法には様々な方法があります。療法を受ける人（クライアント）が歌ったり楽器を演奏する「能動的音楽療法」や、クライアントが音楽を聴く活動をする「受動的音楽療法」、またクライアントの人数も様々で、一人のクライアントに対して行う「個人的音楽療法」や一般のデイサービスなどで行われている「集団的音楽療法」もあります。これらはケースバイケースで行われています。旭川で20余年行われてきました音楽運動療法（元大阪芸大教授 野田燎氏提唱）は、障がい児・者を対象にした個人的音楽療法です。「音楽は万人に生きる力を与える」という理念のもと、このように音楽で人に働きかけることが療法として旭川の地に根付いた事は、音楽のユニバーサル性が立証されたことであると感じています。



「あさひかわのまちづくり」

2021年11月10日（水）15時～17時

東海大学 名誉教授 大矢 二郎

【旭川ウェルビーイング・コンソーシアム教育コーディネーター】

2018年の本講座でも同様のテーマで話をしたが、来年（2022年）が平和通買物公園開設50周年、また本年11月23日は新・旭川駅グランドオープン10周年記念日であることから、改めて、買物公園の造成・改修の歴史と、新・旭川駅を誕生させた駅周辺開発事業「北彩都（きたさいと）あさひかわ」を振り返り、主に〈景観〉の視点から今後のまちづくりについて展望した。

① 「旭川平和通買物公園」の開設とリニューアル

我が国が高度経済成長期にあった1960年代、モータリゼーションによる都市環境の悪化が進む中、弱冠37歳で旭川市長になった五十嵐広三が旭川を「人間中心都市」に蘇らせるべく構想したのが「買物公園」計画だった。72年6月、我が国初の歩行者専用道路が誕生、その後、沿道には大型商業施設が相次いでオープンするなど一時は活況を呈したが、造成前のアーケードや歩車道の段差がいつまでも残存するなど、都市景観は必ずしも好ましい変貌を見せないまま経過した。そうした中、沿道商店主たちから通りの改修を望む声上がり、数次の計画策定作業を経て、98年から5年をかけて平和通のリニューアル（路面の舗装、街路樹〈シナノキ〉の植栽、街路灯、ベンチ、彫刻の設置など）が実施された。整備に当たり、通りの性格を「公園」から「まちのステージ」へと変えた結果、「食べマルシェ」、「大道芸フェスティバル」など様々なイベントが開催されるようになった。

② 「北彩都あさひかわ」と新・旭川駅

JR旭川駅周辺86haの旧鉄道ヤード跡地に新たな都心を形成するプロジェクトが着工したのが98年、土地区画整理や3.5kmに及ぶ鉄道の高架化などのインフラ整備は2014年に竣工した。鉄道高架化に伴い新たに造られた旭川駅の設計では、平和通との連続性が意図された。西コンコースと平和通の中心軸を一致させ、柱間を買物公園の幅員20mに合わせた結果、駅舎がまちのゲートウェイ（都市門）にもなっている。多くの事業主体が参画するプロジェクトでは相互の連携を図り統一感のある景観を創出することが求められる。本事業では景観計画重点区域の指定や「まちづくり推進会議」などが有効に機能した。

③ 今後の課題

2019年、旭川市は神戸、名古屋に次いでユネスコの創造都市ネットワークのデザイン都市に認定された。今後もその名に相応しいまちづくりを進める必要があるが、例えば、歩行者の快適性を高めるために、平和通を間に挟み、昭和通、緑橋通で囲まれる地区を「歩行者ゾーン」として、平和通を横断する車両交通を日曜、祝日などに一部で規制する社会実験などを試みることも考えられる。



「モノづくり、クルマ作りの変遷；

Just in Time からその次へ、北海道からのモノづくり」

2021年11月12日（金）14時～16時
旭川工業高等専門学校 准教授 杉本 剛

自動車の生産が始まって100余年が経ち、その性能が大幅な進化を遂げたのは議論を待たない所である。しかし、自動車産業は重厚長大産業とされ、日本では太平洋ベルト地帯の様な地域の産業とされ、地方部、特に北海道では縁遠い産業とされてきた。拙稿では、北海道、特に道北地域からは縁遠いと思われる自動車産業を題材に、今後の産業構造の変遷と、道北地域がどのように変化するかを予測し、議論した。

自動車産業はCASE(Connected：外部と繋がる、Autonomous：自動運転：、Service & Sharing：カーシェアと自動車関連サービス、Electric：電動化)という変容の時期に入っており、合わせてその作り方、つまり自動車の付加価値の付け方も、小品種大量生産から、多品種少量生産へ変化をしつつある。

小品種大量生産から、多品種少量生産への変化の過程では、ベルトコンベアによって、前工程からものが送られてきたら生産をするという単純流れ生産から、情報をコアにした、お客様が必要とするときを事前予測し、全体のスケジュールを統合して建てる事により、ロスを最小化する同期生産化が進められてきた。これにより自動車ものづくりの生産性は大幅に向上し、今日の日本の自動車産業の成功につながった。

CASEは先進国において自動車サービスの付加価値の向上を提供するだけでなく、発展途上国においても経済成長、交通の質の向上を行う事で全世界的に必要とされている技術進歩である。この中ではカーシェアというキーワードからも予測されるように自動車を大量に作って大量に売るというビジネスモデルではなく、自動車をつくることで如何に素晴らしい価値を提供できるかという、少量生産で、如何に付加価値を高めるか、高機能な商品を作るかという方向にものづくり・ビジネスモデルに変化が始まった事を示している。

商品の付加価値を高めるためにはより複雑な問題を解決する必要があるが、このために昨今では「デジタル」をキーワードに、どうやったらより高機能な

部品が造れるか、より精密なものづくりができるか、という検討が始まっている。MI (Material Integration) や MBD (Model Base Development)、3D プリンティングといった、电脑の世界と実際のものづくりをつなぐ学問の研究が盛んになっており、もはや、商品の開発はデジタルワールドと、リアルなワールドを境目なく繋いで行うものとなってきている。また、付加価値を高めるために部品の仕様毎の機能を付加する多品種少量生産もすすみつつあり、大量生産する為の設備は段々と影を潜めつつある。

北海道は従来、大量生産・重厚長大産業の集積した太平洋ベルトから遠いため、自動車産業には不利な地域とされてきた。しかしながら、その冷涼・かつ自動車の走りやすい環境を利用して自動車メーカーのテストコースは多数存在している。前述のように、付加価値を高め、リアルワールドから情報を吸い上げる現場が北海道なのであれば、北海道で自動車産業ができることは多数あるはずで、今後、多品種少量生産、ものづくりの付加価値シフトが進むことにより、北海道、特に道北地域の産業構造は大きく変わるものと思われる。

2019 年、旭川は旧来より盛んなクラフト産業等の取り組みが評価され、ユネスコクリエイティブシティーズネットワークのデザイン部門に採択され、世界的にも「デザイン」で名の通ったクラフトつまり少量生産で付加価値を高めるものづくりの街となった、

旭川自身の変化、世の産業構造の変化と相まって、自動車を基軸に地域の産業を見る事で、地域の発展のヒントになるのではないかと思い、本講演でスピーチをさせていただいた。

聴講者様からは旭川の地域の事、古い車のこと等を質問、お話しいただき、この思いを強くしたとともに、地域への理解も深まり、講演者としても大変に意義深い場となった。この場を借りて関係者・参加者の皆様に御礼を申し上げます。



『『老い』を考えるー自分らしく生きるためにー』

2021年11月17日（水）15時～17時
旭川大学 教授 栗原 律子

1. 「老い」のイメージ

「老い」と聞くと、一般的には否定的なイメージがあるように思います。その理由を漢字のなりたちと意味から考えてみると、「老」という文字は「腰を曲げて杖をつく老人」の形からできた象形文字です。腰を曲げている様子や杖をつくことが、何かの支えがないと立ってられない、誰かの助けが必要なイメージにつながっているのではないのでしょうか。また、「老」という漢字には「古いこと」という意味があり、「古い」ということに対する否定的なイメージが作られてきたのではないかと考えられます。しかし、「老」という文字は否定的な意味ばかりではなく、尊敬するもの、経験を積んでいる様子など、年をとることの良い面を表している言葉でもあります。そのため、「老い、年をとる」というのはマイナスイメージなことばかりではないと考えることができます。

2. 「加齢」と「老化」

「加齢」（歳を加えていくこと）というのは、この世に生を授かったその日から誰もがみな平等に与えられているもので、全ての人が同じように体験するものです。一方、「老化」というのは「加齢」によって私たちの身体の様々な機能が衰えていく現象のことで、これは個人差があり、その身体機能の低下の度合いには違いがあります。

3. 「加齢」や「老化」がおよぼす影響

「加齢」によってみられる変化は、歳を重ねていくことで社会的な変化、精神的な変化がみられます。社会的には定年退職や子どもの独立、介護など、精神的には無気力、孤独感、抑うつ状態などです。「老化」は身体機能面に様々な変化をおよぼします。例えば、呼吸機能、食欲低下やむせなどの摂食機能、頻尿や便秘などの排泄機能、腰痛や転倒しやすいなどの運動機能、視力や聴力、皮膚の乾燥、かゆみなどの感覚機能、物忘れや問題処理スピードの低下などの記憶思考機能の低下などがあります。

4. 高齢者の姿～健康・社会活動の側面から～

国民生活基礎調査（平成 25 年厚生労働省）によると、65 歳以上の高齢者で病
気やけがでなんらかの自覚症状がある人は約半数、健康上の問題で日常生活に
影響のある人は 4 人に 1 人の割合でみられ、健康状態に対する意識は高齢にな
るほど「よくない」「あまり良くない」と思っている人が多いという結果でした。
社会活動（労働またはボランティア、町内会、趣味、習い事など）状況は、60
～69 歳では約 7 割、70 歳以上では約 5 割の人が参加しており、活動的な高齢者
が多くみられます。高齢者の就業率（令和元年労働力調査）は 60～64 歳で約 7
割、65～69 歳で 5 割弱となっており、8 年連続前年に比べ上昇しています。就
労継続を希望する理由は「収入がほしい」が 5 割で一番多くなっていますが、
次いで「体に良いから、老化を防ぐから」「仕事そのものが面白いから」「仕事
を通じて仲間や友人を得ることができるから」の順でした。

5. 自分らしく生きるためのヒント

「老い」は誰もが避けて通ることはできない現象です。それを否定的なイメ
ージに捉えるのではなく、見方を少し変えてみるのはいかがでしょうか。「老い」
を「生（お）い」と見方を変えてみると、まだまだ成長する可能性を秘めてい
るという意味になります。また「加齢」＝歳を重ねることをご自分がどのよう
にしていくか。その心の持ちようによって良い方に変わっていく可能性があります。
みなさんがこれから先の人生を「華麗」に歳を重ねていくために、ご自
分らしくいきいき生活していくために「老い」の見方を少しチェンジしてみる
こともひとつの方法ではないでしょうか。



「文豪たちの語学力」

2021年11月30日（火）15時～17時
北海道教育大学旭川校 教授 十枝内 康隆

戦前の日本における学校教育において、エリートコースの王道とされたのが、旧制高等学校を卒業し、帝国大学に入学するというものである。もっとも話を文科系に限って言うならば、エリートコースは帝国大学の法科（法学部）へと進学するコースであって、文科（文学部）へ行くことは必ずしも成功を意味していなかった。今回は、東京帝国大学の文科を経て文壇にデビューした作家3名を取り上げて語ってみたい。

尾崎紅葉（1868 - 1903）は帝大法科政治科に入学するも、翌年和文科（国文科）に転じ、そのまま退学している。彼はいかにも明治のエリートらしく和漢の教養に通じていたばかりか、得意の英語で当時出版されたアメリカの大衆小説等を濫読していた。紅葉の近代国文学史上における最大の業績は、なんといっても近代日本語の散文に相応しい各種の文体を試み、それを定着させたことにある。とりわけ『多情多恨』における〈……である〉体の実験はその後の散文スタイルの見本として今日にいたるまで命脈を保っている。一方で紅葉の創作にはその多くに種本があるという指摘がされてきた。なかでもアメリカの大衆小説作家バーサ・M・クレーの作品を耽読し、それを翻案した作品が多々ある。代表作『不言不語』（1895）や『金色夜叉』（1897 - 1902）も、堀啓子らの研究により今日ではクレーの作品に基づく翻案であると判明している。紅葉は新しい文体の模索に勤しむとともに、西洋的なプロットの日本への移入を翻案という形式で試みたのであった。

谷崎潤一郎（1886 - 1965）は第一高等学校英法科に入学するも、東京帝国大学では国文科に進み、そののち退学している。東京府立一中の同級生であった仏文学者の辰野隆（1888 - 1964）は、中学時代の谷崎ほど華やかな秀才には会ったことがないと回想している。谷崎もまだ抜群の英語力で若いころから晩年にいたるまで英語で書かれた膨大な数の小説を読破していた。これらの読書のなかで谷崎が培ったのは、英語と日本語との差異に関する鋭敏な感覚と、日本語における口語文の確立に対する使命感であった。近代の日本語が英語をはじめとした西洋語の強い影響下に発展してきたことを強く自覚していた谷崎は「現代口語文の欠点について」（1929）や『文章読本』（1934）のなかで、日本語の文章を書くにあたって必ずしも西洋文的な要素を過度に意識する必要はないと説いている。谷崎は英語の知識を通して近代日本語における口語文の内的

反省を行った作家であった。

最後に芥川龍之介（1892 - 1927）を取り上げる。芥川は紅葉や谷崎とは違い、最初から文学志望であった。第一高等学校英文科を経て、東京帝国大学英文科へ進学し、同学年の英文科生 20 名中 2 番の成績で卒業した。卒論は「ウィリアム・モリス研究」であった。芥川をめぐる語学伝説は数多いが、普通の英語で書かれた本であれば、1 日に 1,000 ページくらいは読めたらしい。ともかく現在日本近代文学館に所蔵されている芥川旧蔵書の書込みや、残された書簡から分かるだけでも、かなり自在に英語を読みこなし、それを自家薬籠中の物としていたことが分かる。芥川は和漢洋の古典に造詣が深く、「羅生門」（1915）に代表されるような〈王朝もの〉と呼ばれる作品群は、しばしば日本古典文学に関する彼の知識を反映とするものと考えられているが、比較文学者の島田謹二によれば、これは芥川が卒業論文のテーマとして取り上げたウィリアム・モリスの中世趣味にその源泉があるという。芥川の文学的活動の出発点には彼の英文学研究が存在していたのであった。



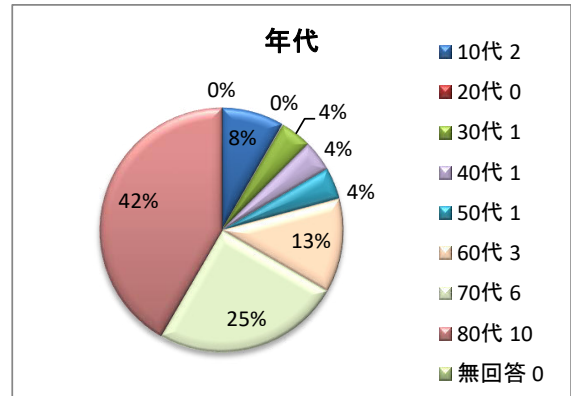
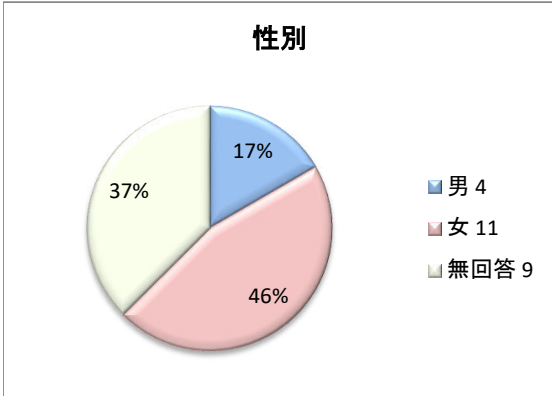
「あさひかわオープンカレッジ」アンケート実施結果

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ」

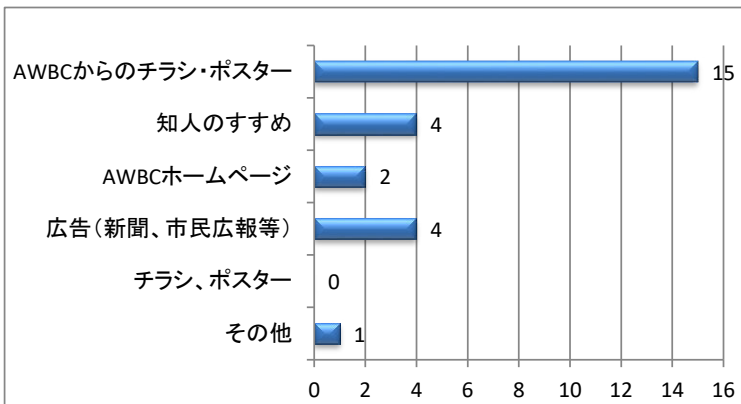
①「国境を越えて考える疾病対策」(10/02(土)13:00~15:00開催)アンケート結果

受講生 24名 回答者 24名
回答率 100%

問1. あなたのことを教えてください。



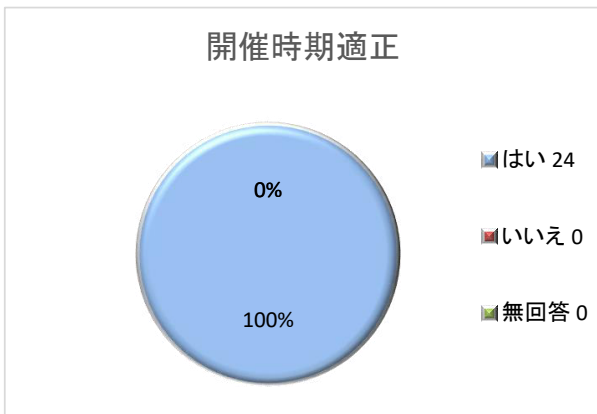
問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



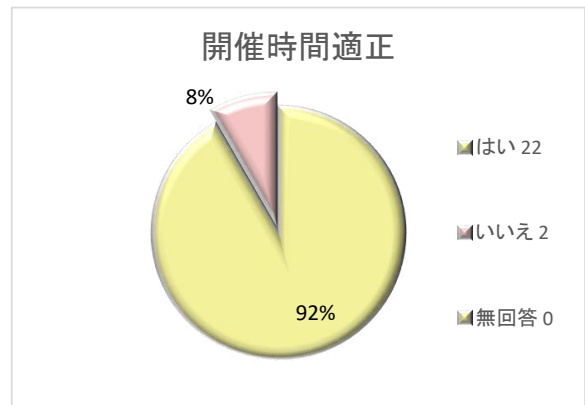
【備考】

○あさひばし
○Oakari

問3. 開催時期は適切ですか。



問4. 開催時間は適切ですか。



○13時頃

○できれば13:30~

問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 古典文学(源氏物語)
- 旭川市の移住対策・方策などをテーマにしたもの
- 川の災害について、自宅や職場周辺の水害を調べる方法
- 世界経済
- 北海道に近いロシアの話
- 旅行でいけない国の実情の話
- スマートシティ・スーパーシティ (未来ビジョン)
- 旭川市地域自治推進ビジョンの実践について
- 地域医療について
- 少子高齢化社会が進むにつれて必要となること
- 「まちづくり」に対する国家施策

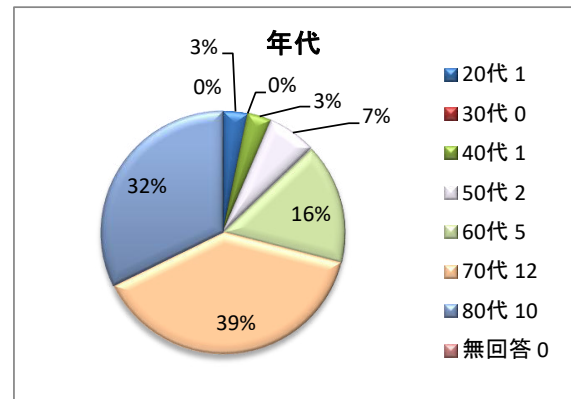
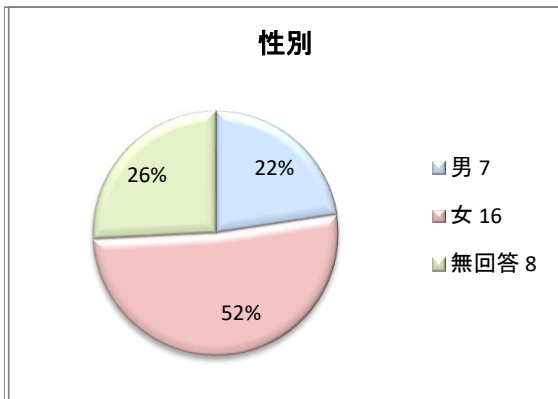
問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

- 講師の方ご自身の体験されたこととお話しされたので、非常に面白く聞かせていただきました
- スリランカに行ってみたくりましたが……
- 今日は楽しくお話を聴かせていただき、ありがとうございました。次回を楽しみにしています
- 色々ご苦労されて、私たちの知らない事を聞かせていただきありがとうございました
- 講座に出席しなければ、海外での活動の様子や、ミャンマーの国のことなど分かりませんでしたので、勉強になりました
- 感染症の抑制に必要なことがよく分かりました。ありがとうございました
- コロナウイルスで日本は遅れをとったが、医療関係など、各機関の方々の努力、一番は国民一人の努力と私は考えていますが、他国は冷遇の扱いの国々があり、私たちも手助けできるならと考えている
- 楽しく聞きました。恵まれた日本に住んでいて、大変な思いをしながら日々暮らす人々に援助してほしい。新しい大臣に伝えたいです
- スリランカやミャンマーの歴史・生活の話と一緒に聞くことで、とても楽しく聞くことができました。JICAの活動の実際についての話が特に興味深かったです。ありがとうございました
- 楽しく勉強できました。土日開催を希望します
- 今日の講座は楽しく聞くことができた
- 希望テーマは「まちづくり」国家施策に関するテーマですが、市民が「まちづくり」を進める為には、講義だけでは足りません。実践のための研究会への支援をお願いしたい
- 本日は、貴重な話ありがとうございました。世界規模で考えるような事は普段なかったのですが、日本以外の国々では、深刻な問題が沢山あり、これからは、世界規模で課題解決をしていけるといいなと思いました

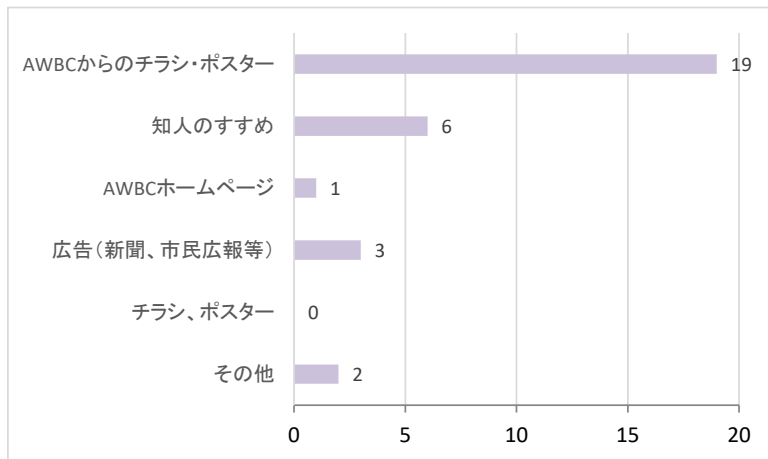
旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ」
 ②「コロナ問題を哲学する」(10/16(土) 13:00~15:00開催) アンケート結果

受講生 33名 回答者 31名
 回答率 94%

問1. あなたのことを教えてください。



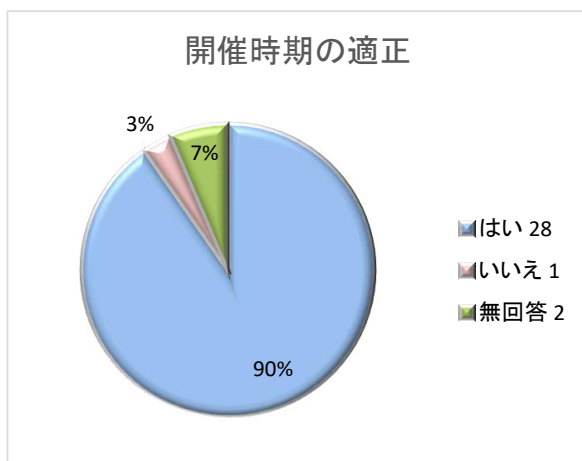
問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



【備考】

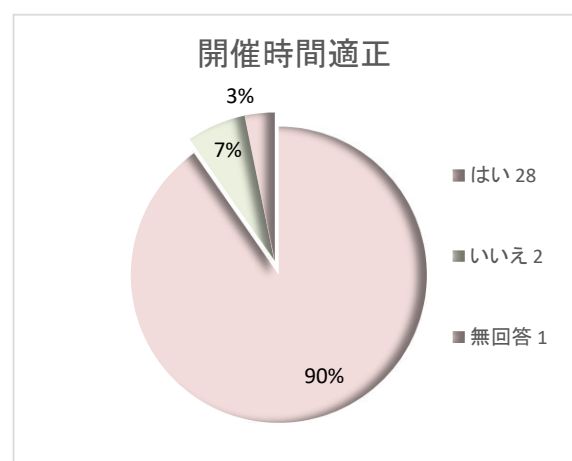
○akar i
 ○あさひばし

問3. 開催時期は適切ですか。



○春がいい ○土日開催を増やしてほしい)

問4. 開催時間は適切ですか。



○13時~ ○14時~

問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 地域の将来性(道北地域を含めて)
- 日本の農業と食について(課題や問題点、特に北海道の農業)
- 文字の歴史について(中国とニッポン)【瀧野喜星先生など】
- 環境について
- 東洋の思想(宗教)など
- 社会で「モンダイ化」されていることをテーマに

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

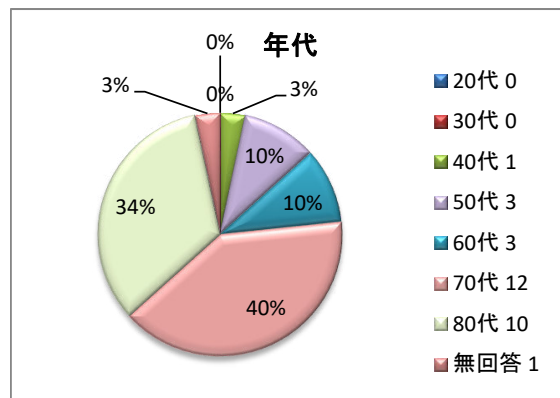
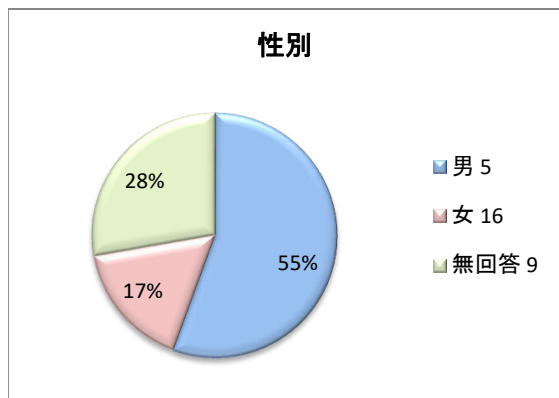
○とても分かりやすく、面白く講義を聞けました。難しい内容なのにユーモアがあり、笑いもあり楽しかったです。ありがとうございました。

- 日本における、経済成長至上主義に、今後の問題としてどのような事が起きるのか是非知りたいです
- 無駄なものは、明日から捨てないと考えております
- 今回の講座は、大変興味のある内容でした
- ベーシック・インカムは非常に大切で、必要だと思う。日本でも導入を真剣に議論すべきです
- 生活の見直しを考えさせられた講演でした
- 無駄な生産が確かに多い社会。それに追従され続けた国民だった。もっとスローライフが大事ではあるけれど、性として慣らされた私たちは、いきなりスローライフは難しいので、考える生活をしていきたい
- 白井先生の声が大変聞きやすくわかりやすく面白かったです
- 具体的な指摘で、理解しやすく面白く聞きました
- 時々笑いもあり、内容も豊かな講義でした
- 今日の講義は、大変ためになりました
- コロナのことは、毎日TV・新聞などで見て、うつ的になっていましたが、今日の講義はとても刺激的で楽しく聞かせていただきました。いろいろな情報(過多)の中から、白井先生の観点から大事なことを選び、資料にしてお話しくださったことに感謝します。斉藤幸平先生の本も読んでみます
- コロナについての考えが拡がりました。お話は大変聞きやすかった
- 生態系の危機に対する訓練のようなものとみえています。日常生活を、そのことを踏まえて生活しなければと学ばせて頂きました。そのことに対して日常の生活は、いろいろなことに対して本当に感謝して生きなければという思いにもなりました
- 北海道の中、日本の中でも旭川の繁栄化はマイナス傾向に? バブル景気の良さを知りつつ、シニア世代での景気が下火になり、これからの行く末が心配になるのは私だけでしょうか?
- 本人をはじめ、周りの人々から断捨離をすすめ、すっきりした中で人生を楽しむこと
- フェイスブックの写真がいいですね

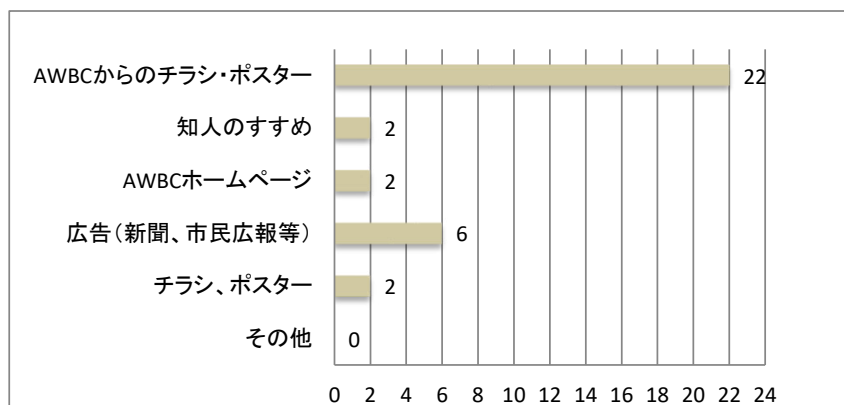
旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ」
 ③「音楽の力～音楽療法入門～」(11/06(土)13:00～15:00開催)アンケート結果

受講生 34名 回答者 30名
 回答率 88%

問1. あなたのことを教えてください。



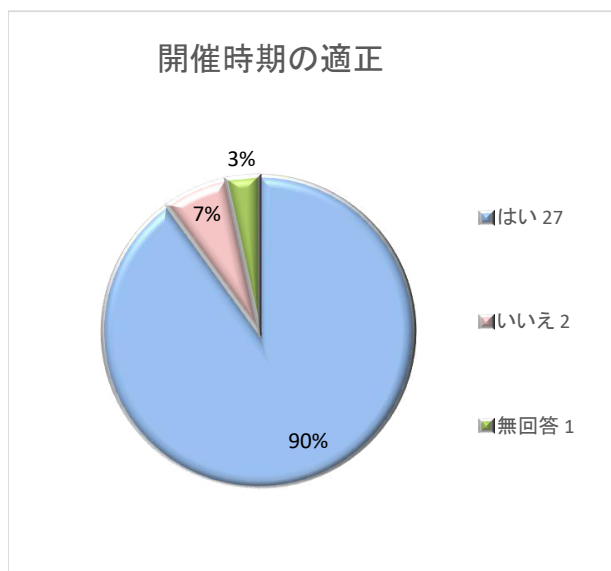
問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



【備考】

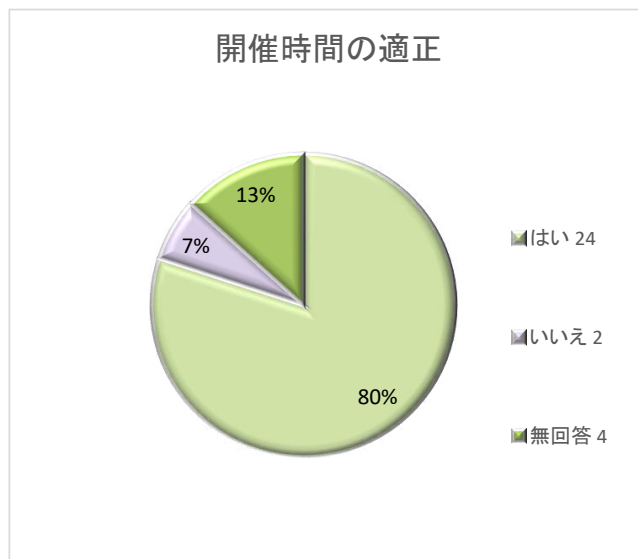
○あさひばし
 ○Oakar i

問3. 開催時期は適切ですか。



○土日開催希望 ○5月か10月

問4. 開催時間は適切ですか。



○13時より13時30分の方が参加しやすい

問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 音楽療法[中級編-実際の映像を見ながら]
- 認知症の体験談とその対応について
- 資産運用
- 年金について
- 楽器と病気の療養との関連性
- 自治体のデジタル化の未来について
- 骨に関すること
- 遺伝の優性・劣性について(病気を含めて)
- 俳句・和歌
- 美術の解説(洋画・日本画)
- クラシック音楽

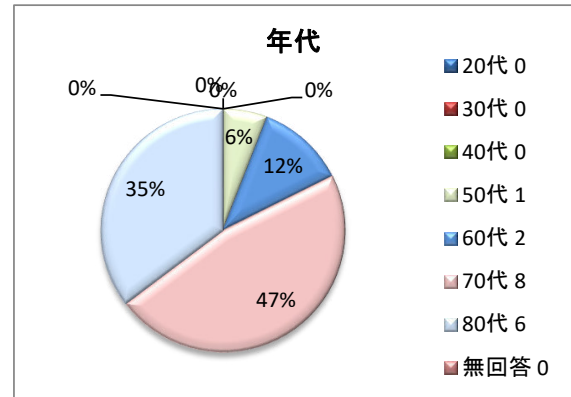
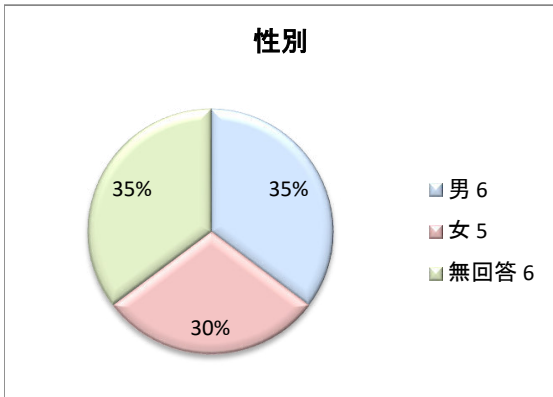
問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

- 勉強になりました。また、色々な体験をしたことを思い出しました。音楽レクのようなことを老人ホーム(親類が入所)などで、何度もやっていましたが、コロナ禍で”音楽は悪”のような2年間になっていました。今回の講義により、音楽の良さを思い出しました。2年間忘れてしまっていた音楽を再開してみたいくなりました。できるものなら、実践を見て学びたいと思いました
- 大変興味深いお話しでした。一般の人が体験できる場所があれば教えていただきたいです
- 音楽の力がよくわかりました。音楽療法がもっと一般的になることが重要だと感じました
- 興味深いお話しでした。私は、音楽が無ければ一日が終わらないほど毎日聞きます。励まされたり、泣きたくなる時もあり、これが療法にも大切だと思います
- 民族と楽器(音楽)の種類との関連性の有無はありますか?国民性によって音楽と宗教のみで楽しむ国はありますか
- とても勉強になりました。知人の子供が重度の障害で困っているので、何かお手伝いできないものかと思っていたので、お話がとても勉強になりました。知人に教えてあげたいです
- 講師の方のお話しが、マスク越しのため聴きにくい

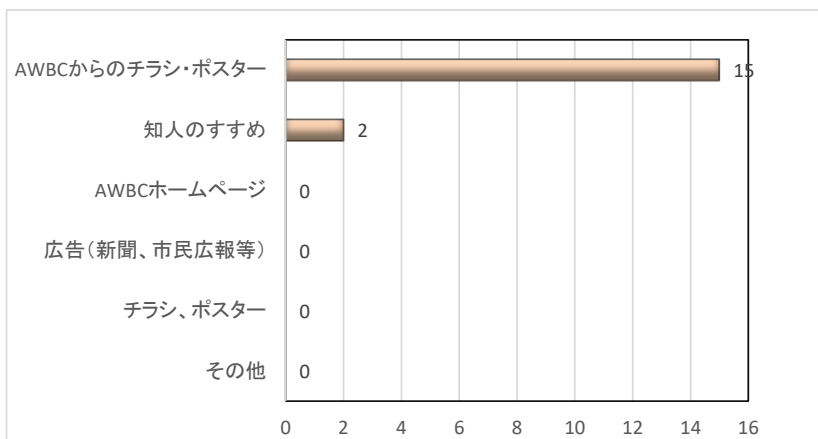
旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ」
 ④「あさひかわのまちづくり」(11/10(水) 15:00~17:00開催) アンケート結果

受講生 20名 回答者 17名
 回答率 85%

問1. あなたのことを教えてください。

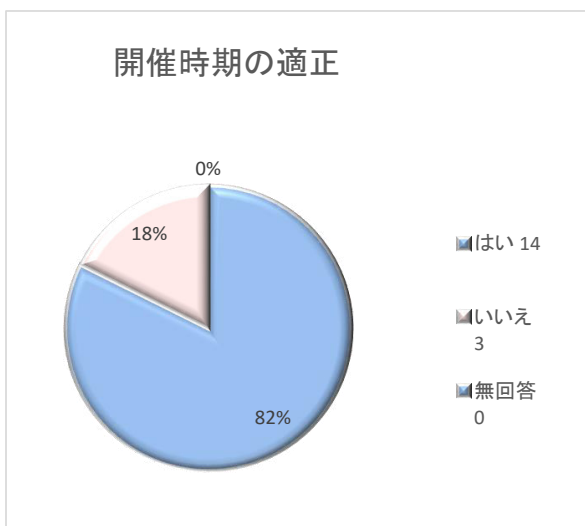


問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



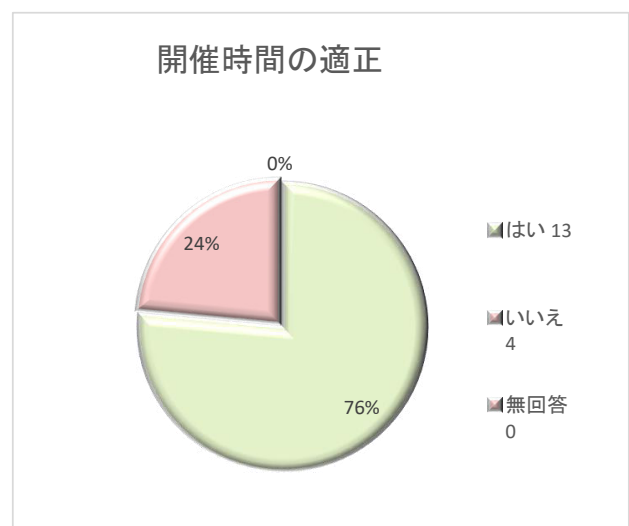
【備考】

問3. 開催時期は適切ですか。



○5月か9月 ○10月頃 ○夏頃

問4. 開催時間は適切ですか。



○冬期は冬至までは13時頃希望 ○13時頃

問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 認知症に関する講座
- 新しい街づくり
- マチづくりに於ける歴史的建造物の保存方法についての講座
- コロナなどの感染症について(コロナで昨年から大変なことになり、医療関係の方々をはじめご苦労された)市民の一人として知識を得たい
- 旭川の水道
- 終活を考える
- 旭川女子中学生のイジメ問題の真相について

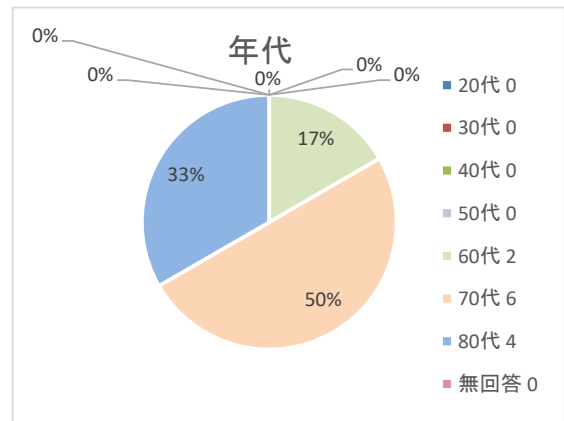
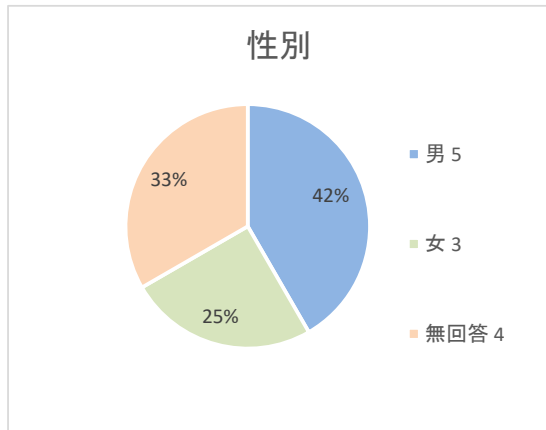
問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

- 何も考えず歩いていた買物公園、駅舎を作るのに買物公園と兼ね合いを考えたりと、先人の苦勞があつて現在があるのだと、尊敬の念を抱きました。ありがとうございました
- 必要性和可能性の調和がとれている話を聞きたかった。市の50年後、100年後のあるべき姿があるなら是非聞きたい！青森方式も一考かと！市の能力のあつた将来を語ってほしい！！
- マチづくりについて全体のつながりを知ることができました。ありがとうございました
- 北彩都あさひかわの駅周辺事業について楽しく聞くことができた
- 旭川に住んでいて、知らない事だらけでした。再発見でき、楽しい貴重な素晴らしい時間でした。ありがとうございました
- 買物公園通り開設に多少関わりを持ったので、懐かしくまた15年間抜けたので(不在)様変わりした通りが少し寂しい気がする

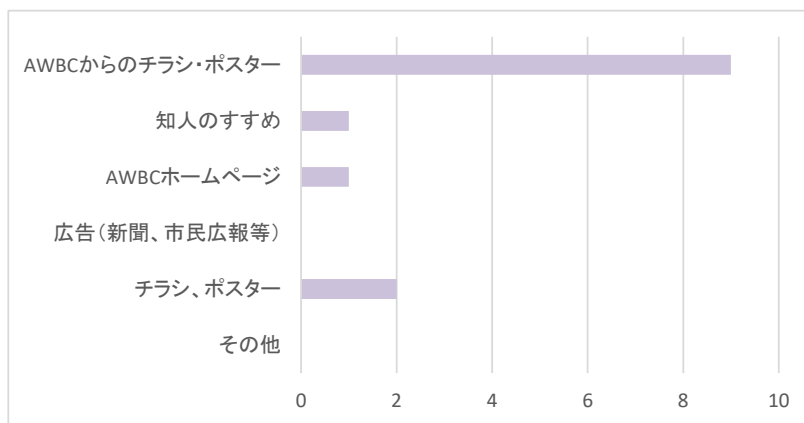
旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ」
 ⑤「モノづくり、クルマ作りの変遷；Just in Timeからその次へ、北海道からのモノづくり」
 (11/12 (金) 14:00~16:00開催) アンケート結果

受講生 15名 回答者 12名
 回答率 80%

問1. あなたのことを教えてください。



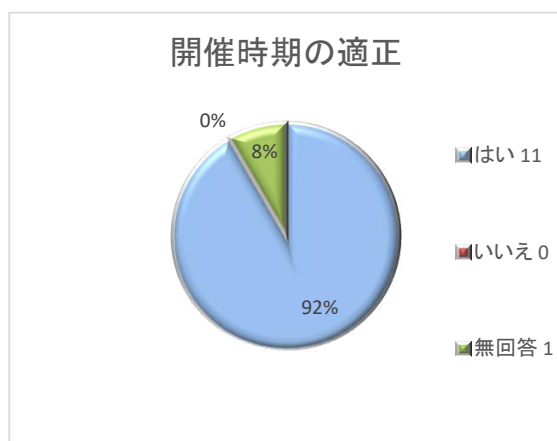
問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



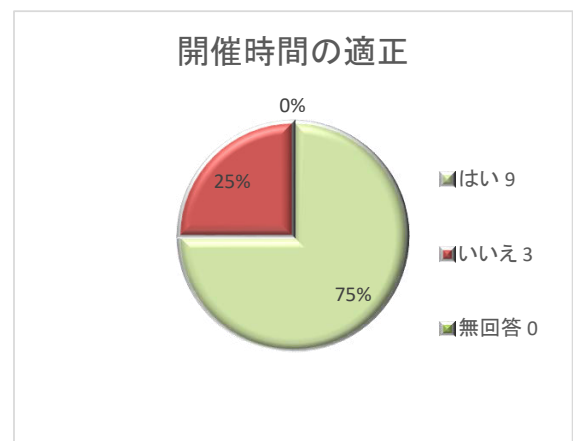
【備考】

Oakar i

問3. 開催時期は適切ですか。



問4. 開催時間は適切ですか。



○13時頃

○冬至までは早めに終わってほしい

問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

○旭川の事、北海道の事知らないことが多く、学びたいことが山ほどあります

○認知症に関する講座

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

○モノづくりの生産工程が詳細に勉強できた

○技術の進歩の速さに驚かされました。し、技術の社会実装については、ローテクの活用も忘れてないでいただきたいと思います

○若い学生さん達の考えも聞いてシニア世代として、どう参加し、何をすべきかを考えたい

○全く知らない分野のお話しでしたが、大学時代(1970年代の東京)の日本の高度経済成長時代の「日本には空がない」スモッグ問題を思い出し、今、現在大きな世界間のテーマとなっている事を再確認いたしました。貴重なお話をありがとうございました

○大変勉強させていただきました。ありがとうございました。これからは、世界に目を向けていくように思いました。今日の先生は、声ははっきりして、お話の内容が分かりやすかった

○エンジン⇄モーターの先は何があるのですか。(CO2排出の有無)

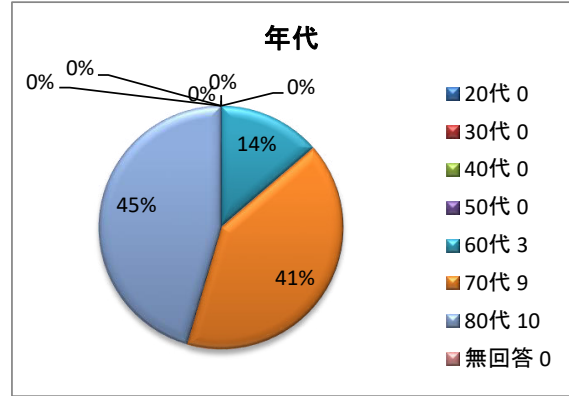
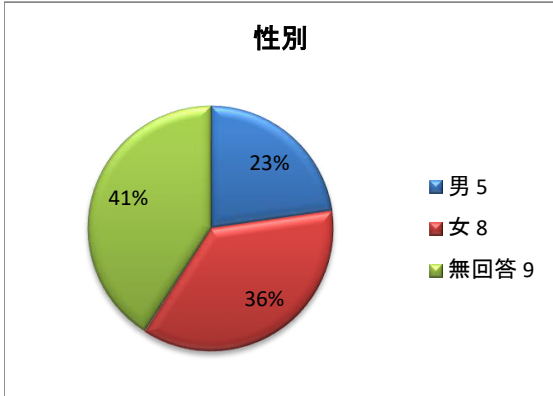
○時間厳守を希望する。タイム イズ マネー

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ」

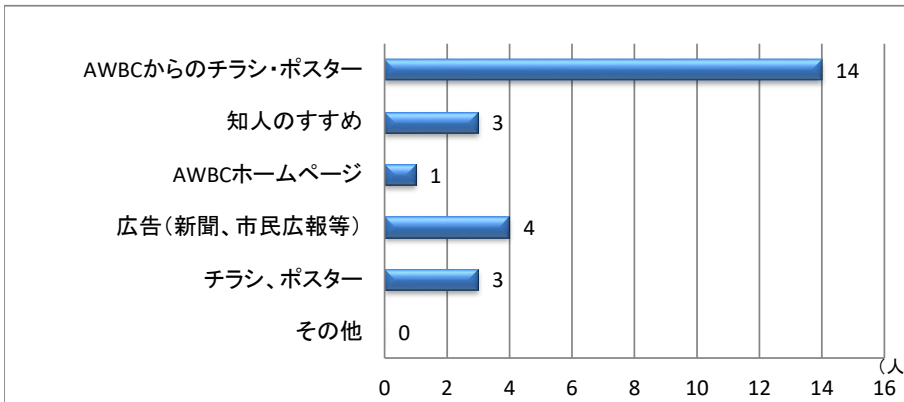
⑥ 「『老い』を考えるー自分らしく生きるために」 (11/17 (水) 15:00~17:00開催) アンケート結果

受講生 27名 回答者 22名
 回答率 81%

問1. あなたのことを教えてください。



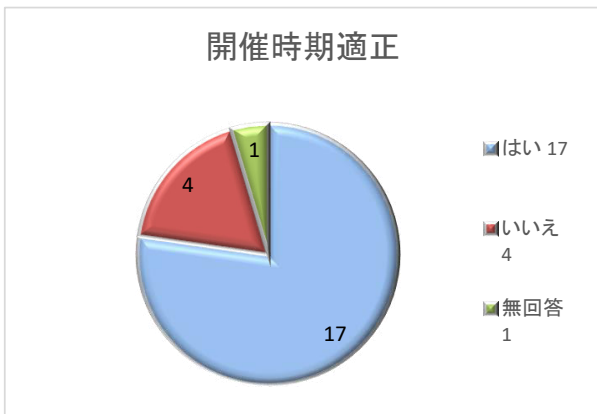
問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



【備考】

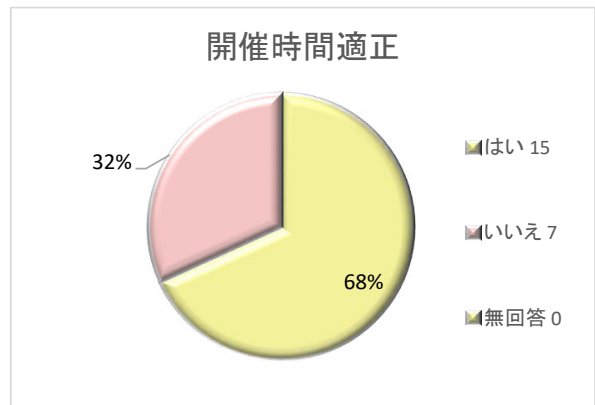
- あさひばし
- akar i
- 中央図書館

問3. 開催時期は適切ですか。



○10月頃

問4. 開催時間は適切ですか。



- 13時~15時
- 14時~16時

問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 高齢者の学習活動について
 - 都市部と農村部の違いについてお願いしたい(特に冬期間の活動等)
 - 家具に関すること
 - 旭川八景に関する歴史
 - 川や海を汚さないために、日常生活で個人が簡単に手掛ける方法等の講話
- 今回と同じテーマ(「老い」を考える)

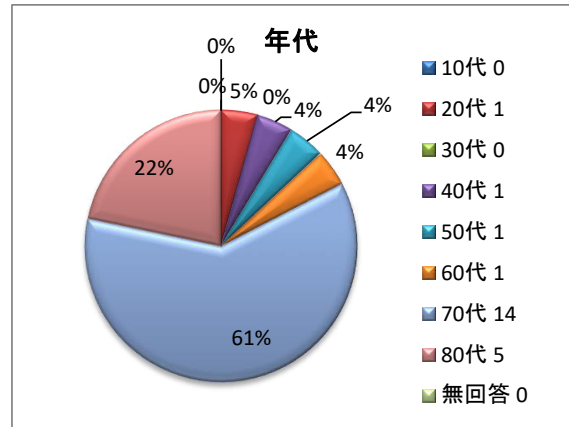
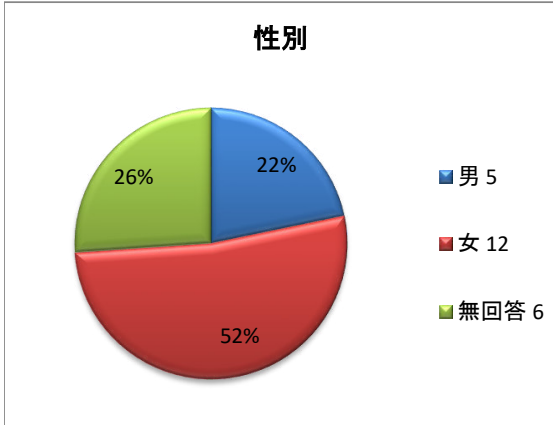
問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

- 良かったです。最後の司会の廣岡先生の話も参考になりました
- 他機関と連携しながら、旭川市民、付近の住民に色んな知識をお願いします
- 本やグラフで明示されること以外の内容を知りたいと思います。少し残念な時間でした
- 老化や加齢による付き合い方が、今日の講座で理解できたことがよかった
- 人間年を取るということは、色々予想もつかないことが次々起こり、その「対処」にまで…案ずることばかりです
- 日々の出来事を時間どおり記録し、これで記憶を補い次々忘れる事を後から補っている。手書きは文字は使わず、パソコンの前列のキーを下敷きに知力低下(アルツハイマー17年)を補って日々を送っています(乱筆乱文で失礼)

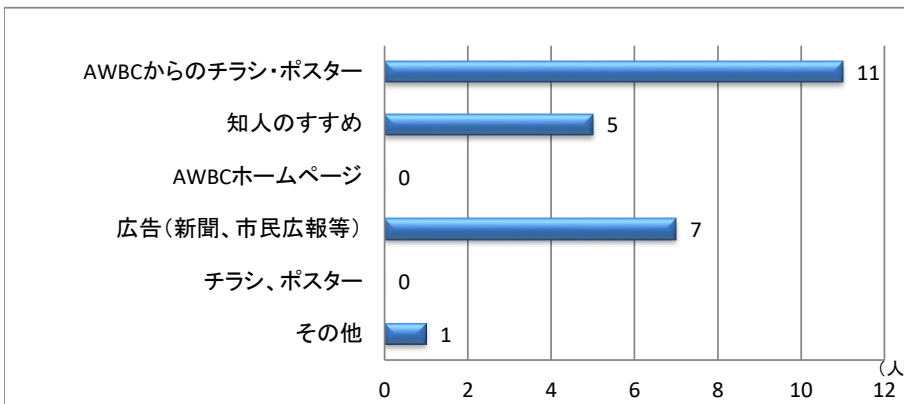
旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ」
 ⑦「文豪たちの語学力」(11/30(火) 15:00~17:00開催) アンケート結果

受講生 26名 回答者 23名
 回答率 88%

問1. あなたのことを教えてください。



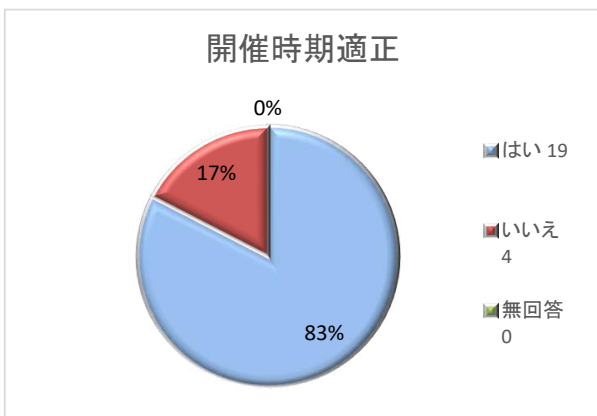
問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



【備考】

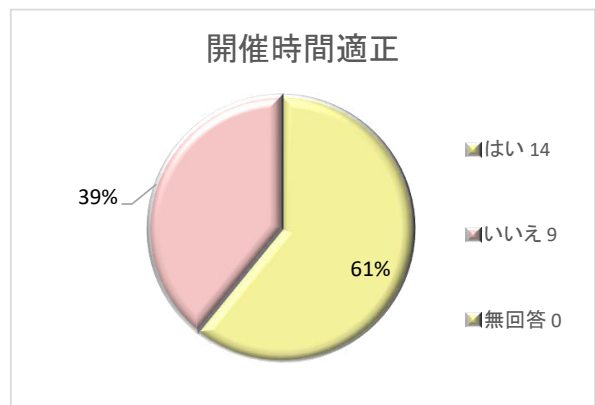
- 市民広報「あさひぼし」
- Oakar i
- 道新夕刊「まちかど情報」

問3. 開催時期は適切ですか。



- 5月か9月
- 10月頃
- 春か夏
- 4月~10月(積雪前)

問4. 開催時間は適切ですか。



- 13時~15時
- 13:30頃
- 14時~16時
- 10時~12時
- 19時~

問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 認知症に関する講座
- 森 鷗外の「である」体について
- 老人の生き方に関する講座(前回都合で出席できず残念だった)
- 日本史
- 十枝内先生の他の「語学力」を再度お願いします
- 公衆衛生について
- 日本近代文学又は日本古典文学
- 歴史(日本の古代・中世・近世)
- 万葉集の解説

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

- 先生の説明が大変わかりやすく、勉強させていただきました
- 楽しくお聞きできましたが、マイク音が大きすぎて負担に感じました
- この講義は何が何んだかわからなかった
- 今日のお話は大変面白かった。今まで知らなかった事がいくつもありました
- 文豪たちの人となりを興味深く聞きました。すばらしい講座でした

一般社団法人旭川ウェルビーイング・コンソーシアム
連携公開講座 2021
旭川市教育委員会共催
「あさひかわオープンカレッジ」報告集

2022年2月発行

編集・発行：一般社団法人旭川ウェルビーイング・
コンソーシアム
旭川市教育委員会